

5年 総合的な学習の時間 研究授業のまとめ（12月6日）

1 単元名及び単元の目標

仙台白菜について考えよう（4/16本時）

- ◎ 仙台白菜という仙台を代表する野菜に関わる方の思いにふれ、仙台白菜を通して地域を活性化させようという願いに気付くとともに、食物に対する思いを深める。

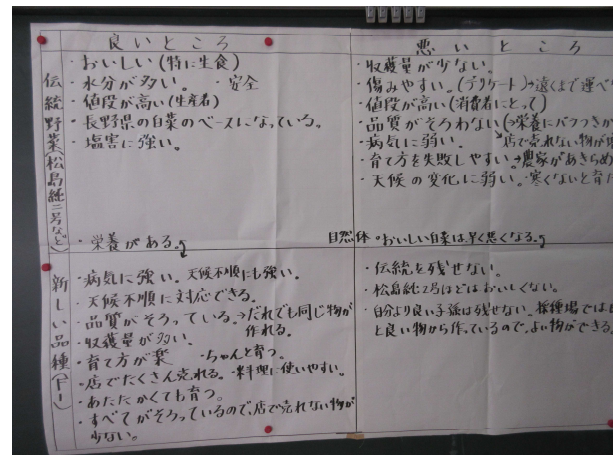
2 本研究授業の提案について

本時は、伝統野菜「松島2号」や新品種の白菜を育てる人の気持ちを考え、仙台白菜に込められた思いや願いに気付くことをねらいとし、以下の提案をした。

- (1) 白菜に関して複数のゲストティーチャーの話聞き、講話の内容を比べたり関連付けたりすることで、自分の考えを持ち、自分の意見の根拠を明確にして話し合うことで考えを深めようとした。本時では、「自分が農家だったら、どちらの品種を植えるか」と考えさせたことにより、真剣に考え話し合うことができた。講話から分かった、伝統白菜はおいしいが育てにくく傷みやすい、新品種は栽培しやすいという特徴を踏まえた話合いになった。「売れるものを作る」「売れるまで育てられるものを植える」という経済的な理由で新品種を選ぶという意見と、「伝統を伝え守るために伝統白菜を植えたい」「東日本大震災後伝統白菜を復興のシンボルとして取り組む活動があり、応援したい」「昭和の初め仙台白菜が関東方面で大流行したことや、伝統白菜が長野県に大きな功績を残したことは地域の誇りなので、伝えるためにもなくしたくない」という意見に分かれた。違う立場から意見交換したことで、農家の人の立場、伝統白菜の意味などを十分に考えることができた。

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) ゲストティーチャーの講話のメモや各自が調べたことなどを基に「伝統白菜」「新品種」の、良いところ・悪いところ・興味深いところを記入したPMIシートを活用した。（資料1 PMIシート）それにより、根拠を明確にして発言し、聞いている児童も発言の内容を的確に捉え納得したり反論したりできた。



- (2) 「伝統白菜」「新品種」どちらを栽培

【資料1 PMIシート】

する方にも共通することを各自で考えた後グループで話し合った。自分が書いた付箋を提示しながら話合ったことは、意見の概要が見え、話合う手だてになったが、「共通すること」は考えにくく、考えをまとめるまでに時間が掛かりすぎた。話合いの結果「おいしいものを作りたい」「仙台白菜を絶やさずにいきたい」「仙台白菜のことを知ってほしい」などの思いに気付けた。

4 今年度の研究を振り返って

今年度は、「種から広がるつながり見つめよう」というテーマで2回の研究授業を行った。「生産者の苦労を実感することや「社会の動きに対応した農業の現実」について考えたことにより、「自分たちが食べて生きていけるありがたさ」を感じ、日常見過ごしてきた「命」をつなぐ人や物に感謝の気持を持つことができた。そして、西洋カボチャも白菜も宮城県で種が作れたから日本で栽培できるようになったことを知り、地域に誇りや愛着を持つことができた。今後も児童に身近で有意義な学習材を検討していきたい。